

6. 両生・は虫類

兵庫県下で現在確認されている両生・は虫類の外来生物は以下の4種である。

- ・ウシガエル
- ・ミシシippアカミミガメ
- ・カミツキガメ
- ・ワニガメ

ウシガエルは、ため池が多数存在する播磨地域から丹波地域にかけて、ごく普通に生息している。捕食や餌をめぐる競争を通して、他のカエル類や水域の生態系に影響を与えていると考えられるが、次のミシシippアカミミガメと同様、生態系に与える影響の範囲や大きさについては、不明である。兵庫県全域からの根絶は現在のところ極めて困難と考えられる。しかし捕獲奨励種に指定し、地域からの強い要望があり地域から根絶できる可能性のある場合、特定の水域また地域で根絶に向けた集中的な事業を試験的にを行い、その効果の確認を兵庫県が他府県に先駆けて行う意義は十分にある。

ミシシippアカミミガメは、動物から植物また生きているものから死骸に至るまで、その食性の幅がきわめて広い。日本の寒冷地域を除いて越冬・繁殖でき、兵庫県でも自然繁殖し、定着していると考えられる。特に市街化地域のため池や掘では、在来のクサガメよりも個体数が多い場合がしばしば認められる。本種はサルモネラ菌の保菌率が高く、人体への感染例も報告されている。ただ在来種クサガメへの影響や生態系に与える影響については不明である。また在来のクサガメに比べて、攻撃的であるとはいうものの、カミツキガメほどの人体への危険性はない。

国の計画の中に皇居外苑壕から外来魚類を排除する計画があるように、ウシガエルやミシシippアカガメについても捕獲奨励種に指定し、地域からの強い要望があり、根絶できる可能性のある場合、特定の水域また地域で根絶に向けた事業を試験的にを行い、その効果の確認を兵庫県が他府県に先駆けて行う意義は十分にある。

本報告書では、特に人体に及ぼす危険性の高いカミツキガメについての生態、侵入過程、県下の分布情報、影響、被害状況、対策事例、県の対策をまとめた。現在数個体のワニガメが兵庫県で確認されているが、カミツキガメと同様の対策をとるべきである。